



DIVP

Driving Intelligence Validation Platform



デジタルツインに向けたシミュレーション技術 最前線！
- 自動運転車の安全性評価基盤構築タスクフォース活動 -
第1回_DIVP技術セミナー

2024-4-22

Weather Forecast



AD safety Assurance*



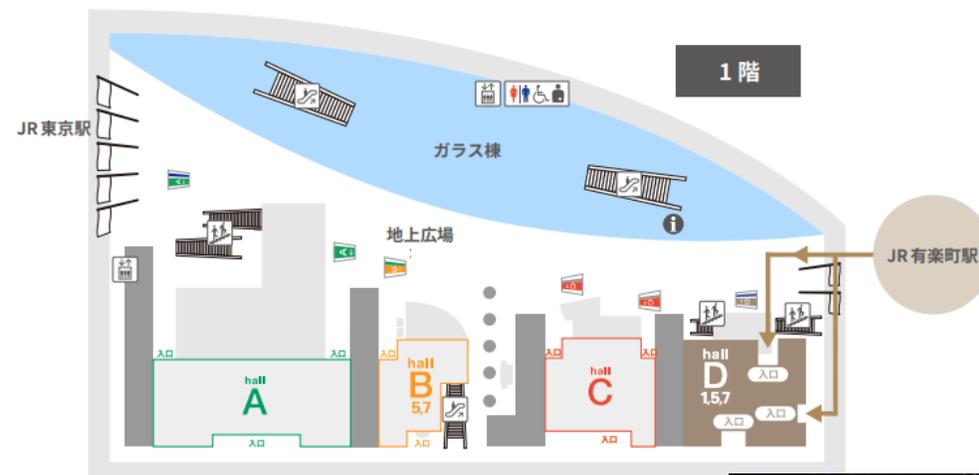
For Validation & Verification Methodology

実施概要

主催	<ul style="list-style-type: none">■ 経済産業省■ DIVP研究コンソーシアム■ 運営事務局 :デロイトトーマツコンサルティング合同会社 divp_org@tohatsu.co.jp
概要	<ul style="list-style-type: none">■ 日時 : 4/22 10:00~17:00 (17:00~交流懇親会)■ 場所 : 東京国際フォーラムD7 (懇親会はD5)■ 参加料 : 無料 (懇親会参加費は¥5,000(税込み))
目的	<ul style="list-style-type: none">■ 研究開発の現場を担う技術者に向け、Virtual環境を活用したAD/ADAS安全性評価の最前線をご紹介します、現場の研究開発の高品質化・効率化に役立てていただく
協賛	
参加登録先	<ul style="list-style-type: none">■ https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=8UXaNizdH02vE1q-RrmZlFvFvbv07rixKnNzTYddvb-pUQjdXWjJOMFBYTk5COTdaSzFBQ1JZR0FSVi4u

東京国際フォーラム

- 会場へのアクセス : <https://www.t-i-forum.co.jp/access/access/>
- D7/D5へのアクセス : <https://www.t-i-forum.co.jp/img/visitors/facilities/d7/131-05-access-01.pdf>



アジェンダ(案)

Time	Title	Speakers
10:00~	Opening	ジャーナリスト / 神奈川工科大学特命教授、清水和夫様
10:00~10:30	<Key note1> モビリティ・DXにおける仮想空間シミュレーションの意義	経済産業省 伊藤室長
10:30~11:00	<Key note2> 日本における自動運転の取組みとバーチャル評価への期待	本田技研工業（株） 波多野様
11:00~11:30	<Key note3> 欧州の取組み（GaiaXデータ連携とL4安全性評価）	DLR Dr.H.Mosebach / Prof.F.Koster
11:30~12:00	<Key note4> 安全性評価基盤構築タスクフォース活動	安全性Project サブリーダー / 金沢大学 菅沼教授
12:00~12:40	<パネルディスカッション> デジタルツイン構築にむけた安全性評価基盤の発展可能性	経済産業省 伊藤室長 本田技研工業（株） 波多野様 金沢大学 菅沼教授 モデレータ：ジャーナリスト / 神奈川工科大学特命教授、清水和夫様
12:40~13:40	Lunch break	
13:40~	仮想空間シミュレーション技術 最前線！	
13:40~14:10	認識 & 安全リスク評価を実現するDIVPプラットフォーム開発（2-Stage評価の提案）	TTDC 長瀬様
14:10~14:40	コンクリートシナリオ生成方法と事例紹介（チーム1 成果主）	三菱プレジジョン 竹田様、別宮様
14:40~15:10	センサーモデルを活かす空間伝搬モデルとその使い方	BIPROGY 渡邊様
15:10~15:30	休憩	
15:30~16:00	Radarの必要性、最近の進化	神奈川工科大学 天野特任研究員
16:00~16:30	センサー認識弱点評価	金沢大学 米陀准教授
16:30~17:00	DIVP反射物性の重要性→ASAM OpenMaterial標準化への反映	BIPROGY 昼間様
17:00~17:10	<Closing> DIVP社会実装のstatus、今後のDIVP技術セミナースケジュール等	BIPROGY 今村様
17:10~	技術交流懇親会	

* 午後のセッションはプレゼン25分、QA5分

Key noteスピーカー

Key note1

モビリティ・DXにおける仮想空間シミュレーションの意義



伊藤室長



経済産業省モビリティ・デジタルトランスフォーメーション推進室長を務め、これまでインフラ輸出戦略の推進、世界貿易機関（WTO）ルール交渉、カーボンニュートラルに向けた環境エネルギー政策、医療デジタルトランスフォーメーションの推進などを統括。

Key note2

日本における自動運転の取組みとバーチャル評価への期待



波多野様



日本自動車工業会 自動運転部会の部会長として国際基準調和活動ならびに国際標準化活動に取り組むほか、自動運転の普及拡大に向けた国内の官民連携の様々な取り組みへも参画。ISO TS 23792-1 Motorway Chauffeur Systemのプロジェクトリーダーも務める。

Key note3

欧州の取組み（GaiaXデータ連携とL4安全性評価）



Dr. Henning Mosebach



Dr. MosebachはDLR交通システム研究所の研究戦略部長を務め、VVメソッドの普及と連絡活動を主導し、コネクテッド・モビリティと自動モビリティの専門家として活動。



Prof. Frank Köster



Prof. KösterはDLR AI安全・セキュリティ研究所の所長として、SETレベル・プロジェクトとGAIA-Xデータおよびサービス・マーケットプレイスのコーディネートを担当。

Key note4

安全性評価基盤構築タスクフォース活動



井上教授



神奈川工科大学の特任教授およびDIVP® コンソーシアムリーダーを務める。ビークルダイナミクス、アクティブセーフティ、ADAS技術の研究を専門とする。



菅沼教授



金沢大学高度モビリティ研究所 副所長であり、AD-URBANプロジェクトのリーダを務める。専門は自動運転システムであり、これまで日本国内において多数の自動運転車両の公道走行実験を行った経験を有している。

パネルセッション

デジタルツイン構築にむけた安全性評価基盤の発展可能性



伊藤室長



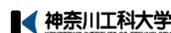
波多野様



菅沼教授



清水特命教授



工業大学卒業後、1972年にモータースポーツを始めて以来、国内外のレースで存在感を示し、現在は自動車ジャーナリストとして活躍。ドライビング・ダイナミクスの安全性だけでなく、燃料電池やハイブリッドなどの工コ技術に焦点を当てている。

END

Tokyo Odaiba → Virtual Community Group

